

会 議 録

会議名	平成13年度第1回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成13年11月15日(木)午前10時から午後0時	
開催場所	宇都宮市役所本庁舎 14A会議室	
出席者	【委員】諏訪利夫, 高橋森一, 福田久美子, 真壁英敏, 赤塚朋子, 中尾久, 廣田宏子, 湯澤博, 葭葉リウ, 柿沼光子, 児玉博利, 玉垣潤一, 増子三男, 熊本範夫, 手塚修, 川本由江, 田中広 【事務局】檀淵宇都宮市環境部長, 他11名	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	なし	
議題	1 会長の選出について 2 生ごみ等減量化・資源化計画の策定について 3 その他	
会議結果	議題1	委員の互選により, 諏訪委員を会長として選出
	議題2	今回の審議結果をもとに, 事務局において整理の上, 次回継続審議
	議題3	第2回は, 平成14年1月24日(木)午後1時15分から, 市役所14A会議室において開催
<b>発言要旨【議題2関係】</b>		
葭葉委員 (意見)	・消費者友の会で処理機を購入したが, 使い方がよくわからない等の問題がある。販売店や行政によるフォローアップ, 特に高齢者に対する説明が必要である。	
砂川課長 (回答)	・購入者を対象にアンケートを実施したところ, 9割は問題がなく, 残り1割に微生物タイプの処理機でうまくいかない事例があるようだ。 ・効果的な活用の研修会やアドバイザー制度など, 高齢者にも分かりやすい対策を検討していく。	
赤塚委員 (意見)	・家庭用処理機の普及には反対である。小型焼却炉の二の舞を危惧している。 ・機器を使用しなくても, 家庭で減量化できる方法の普及を提案したい。 ・補助は, 共同処理や大規模な場合に拡大していくべきである。	
砂川課長 (回答)	・家庭系生ごみの減量化は, 機器一本ではなく, 共同堆肥場の推奨など様々な対策を検討しているところである。 ・家庭の事情に合わせ, 処理方法を市民が選択できるよう多種多様に対応していきたい。	
赤塚委員 (意見)	・多様に対応するということをもっとわかりやすく表現して欲しい。	
湯澤委員 (質問)	・推進体制のあり方に市民や事業者と行政が役割を分担する体制を確立するとあるが, 行政が地域ごとに体制を作るように指導していくのか?	
清掃課長 (回答)	・生ごみ以外は, 分別すればリサイクルする仕組みができていますが, 生ごみについては, 自治体がそれぞれの状況にあわせて仕組みを作らなければならない。市民や事業者と協力をしながら推進していきたい。	

川本委員 (意見) (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤塚委員の意見に賛成する。処理機は 5, 6 年後には, 買い替えてごみになる。</li> <li>・発生抑制事業の意識啓発は, 大切なところなので, 色々な方法をしっかり掲げて分かりやすくして欲しい。</li> <li>・P 4 の ( 2 ) 資源化方法の中に, R D F 化とあるが, どういう意味か説明して欲しい。</li> </ul>
清掃課長 檜原係長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご意見のとおり発生抑制が大切と考えている。</li> <li>・「生ごみの資源化方策としての R D F 化」という表現は正しくないので, 削除する。</li> </ul>
中尾委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本方針の中に, 民間活力の導入を図るとあり, 随分, 民間を頼りにしているようだが, 行政もやらない, 民間もやらない, 宙ぶらりんになってしまうのではないか。</li> <li>・民間活力を導入して成功している事例があったらお聞かせ願いたい。</li> </ul>
砂川課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌市のリサイクル団地での事例で, 三造有機リサイクル(株)による生ごみの飼料化事業がある。残念ながら, 宇都宮市での事例はない。</li> </ul>
高橋委員 (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・札幌の事例で, 全国的に普及できた理由は何故か。また, どのように活用されるのか。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農林水産省から「食品副産物」として全国で初めて飼料に認定された。</li> <li>・魚の餌, 豚の餌等として活用されている。</li> </ul>
田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理機は団地等で共同処理する場合は有効な手段であるが, できたものをどう生かすかがポイントである。市の対応策を入れて欲しい。</li> <li>・家庭系生ごみの減量化はリーダー養成もさることながら, グループを作ることも大切である。</li> <li>・有料化との関連で, 補助を受けて購入した人には, ごみ袋を少なめに渡すなど工夫してはどうか。</li> <li>・食品リサイクル法の推進については, 対象となる食品関連業者だけでなく, 全事業者に対してその精神を普及させていただきたい。</li> <li>・リサイクルには信頼関係が大切である。市民は民間だけの事業だと心配するので, 行政が関わって推進すべきである。</li> <li>・リサイクル施設の建設には, 周辺地域だけでなく情報を公開するなど広く対応して欲しい。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理機はできたもの(資源化したもの)の対策を詰めた上で普及させていきたい。</li> <li>・減量化に向けた市民のグループ作りを支援していきたい。</li> <li>・有料化の際には, 補助との関連も考慮していきたい。</li> <li>・食品リサイクル法については, 100 t 未満の事業所についても, 精神を普及させていく。</li> <li>・リサイクル事業については, 行政が一緒になって仕組み作りをする。</li> <li>・リサイクル施設の建設には, 当然, 情報公開にも努める。</li> </ul>
田中委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間が市民から信頼される方法の一つとして, ISO の取得も効果があると思うので, 行政の配慮もお願いしたい。</li> </ul>
熊本委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当社も本年 10 月に ISO14001 を取得したところであるが, 企業の取り組みとしては有効であると思う。行政の場合は, 市民が対象なので, ISO の効果は, 難しいのではないかと。モラルにつきると思う。</li> </ul>
環境部長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇都宮市も本庁舎を対象に, 12 月には ISO14001 の認証を取得する予定。</li> <li>・市の取得は, 市民や事業者の皆様の良い影響を与えていると考えている。</li> <li>・市民を対象とした家庭版の ISO や事業所に対する取得に向けたアドバイスの実施等援助策を検討中である。</li> </ul>

高橋委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山形県長井市(レインボープラン)では、市民ボランティアグループが主体となって有機物を土にもどそうという活動の事例がある。採算が合わない等の問題もあると思うが、市民の力を活用した取り組みを考えてみてはどうか。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民がそれぞれ力を出して堆肥化、減量化することは、生ごみ対策の大きな柱である。</li> <li>また、事業系生ごみは市場経済にのるよう、ある程度大きなプラントで流通させることも、大量に資源化する一つの方策である。</li> <li>この二つを大きな柱に生ごみの減量化に取り組んでいきたいと考えている。</li> </ul>
福田委員 (意見) (質問)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発生抑制事業の中に具体的な啓発メニューを記載して欲しい。</li> <li>小中学校のISO等、教育が大切なので、長い目で環境学習に取り組んで欲しい。</li> <li>一度には減らないけれど、出したごみはその場で土にしていくといった「地産地消」という事も基本におくべきである。</li> <li>処理機器の費用対効果は、どれくらいか？</li> </ul>
会長 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>会長としても、教育は大切であると考えているので、家庭版ISOについてはぜひ検討して欲しい。</li> </ul>
環境次長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭版ISOについては、環境課で既に準備を進めており、市独自のものを考えている。家庭や学校から地域への広がりも期待できる。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>少量排出については、お金をかけずにできる地産地消ということも基本にしたい。</li> <li>費用対効果については、平成12年度のデータであるが、約3,200基を普及することによる堆肥化量は約573t/年。573tの収集経費約1億2千万から補助額約9,800万円を引いて、耐用年数で割ると約280万円/年のプラスとなると推測している。</li> </ul>
児玉委員 (質問) (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>減量化しなければならないのは、処理費用の問題なのか、処理場所の問題なのか？</li> <li>実際に減量を進めるのは44万市民であり、その市民にどう働きかけていくかがポイントである。</li> <li>基本的に一般市民は社会に対する義務はないと思うので、広報活動により働きかけを行う。事業者は、恩恵を受けている分、社会に対する責任はあると思うので、処理金額を高くする等責任を果たす方法をとっても良いと思う。</li> <li>広報については、単に「ごみを減らしましょう」ではなく、必要性や具体的な方法を盛り込んだ方が効果的である。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理費用も処理場所の問題もあるが、何より持続可能なよりよい環境を子々孫々に残していけるよう焼かない、埋めないことを考えている。</li> <li>効果的な広報活動について検討していく。</li> </ul>
柿沼委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に関心のない一般の人への対策が大切である。</li> <li>共稼ぎの3~40代の女性や男性、若い世代に統計をとったことはあるか。無ければとってみたらどうか。</li> <li>(ごみを分別したり資源化したくとも)、育児や家庭に忙しい女性は、義務を果たすのが大変である。何か行政が支援できることはないか？</li> <li>若い世代のモラルが低下している。この世代にも目を向け、わかってもらえるような(嫌なほど耳に入るような)対応、広報が大切である。</li> <li>目に入る機会が多ければ効果がある。マンガなど表現方法を工夫して見やすいものにして欲しい。</li> </ul>

清掃課長 (回答)	・現在、地域でのリーダーを養成する事業を検討中で、組織的な地域の取り組みを促していきたい。
眞壁委員 (質問) (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減量化率・資源化率の設定の基準,設定値の他市との比較,資源化率の34%を限界とみるのかどうか。</li> <li>・家庭系生ごみ,地域の生ごみの資源化について,モデル地区を設定して実施してはどうか。</li> <li>・生ごみの飼料化事業は,平成17年に60校に拡大の予定であるが,もっと早めることができるのかどうか。</li> <li>・名古屋市では分別収集を拡大することにより,費用が1億から9億かかった事例があるので,分別を推進する際には,費用面も考慮すべきである。</li> </ul>
赤塚委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最終目標年次である平成27年に減量化率16%はあまりにも低すぎる。</li> <li>・リサイクル率が平成27年に34%だが,現在,野木町で58.1%,高根沢町で30.8%であり,もう少し考えていただきたい。</li> <li>・資源化するとお金がかかる。資源化のあり方も考えていく必要がある。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源化率34%を限界とは思っていないが,現実的な設定にならざるを得ない。全国平均は11%である。小さい自治体ほど町ごと村ごとの取り組みがし易く率も高く,都市化されればされるほど率は低いのが現状である。</li> <li>・モデル事業の実施については,協力していただける場所があれば,実験していきたい。</li> <li>・飼料化の拡大については,3年の試行期間で検証していく。</li> </ul>
川本委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみは有機質だから,自然に土に還る。お金を使わなくても資源化できるということを認識して欲しい。ドイツでは,生ごみを分別して休耕田に埋めている事例もある。そういったことも検討して欲しい。</li> </ul>
玉垣 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(事業者の立場として)西武百貨店は,1999年4月に百貨店で初めてISO14001を取得した。その効果と大変さが重要である。事業者がISOを取得することにより自主基準を作るから,生ごみについても減量基準を設け,組織的に取り組んでいける。宇都宮店だけでも1000人,全体では数万人に影響を与える。発生量を押さえるためには,社員教育も大切で,家庭への2次的効果へも期待できる。</li> <li>・ISO14001は,取得しなければならぬ時代と認識している。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市としてもISOの取得に対して,何らかの支援ができるよう検討していく。</li> </ul>
福田委員 (意見)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(市民の立場として)モラルの低下に対して,ソフト面の充実が必要である。地域で分別を進めるためには,教育や男女共同参画,自治会など横の連携をとることが必要である。</li> </ul>
清掃課長 (回答)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市としてもネットワークづくりに努めたい。</li> </ul>
<b>発言要旨【議題3関係】</b>	
田中委員 (要望)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この審議会で諮問されないことを,委員の側で重要だから話したいという場合,受け入れる方法を検討していただきたい。</li> </ul>